

言語と感情の関係:中国語、日本語、英語による違い

村上岳道

はじめに

言語と感情の受け取り方に関する研究はその受け取り方の強弱に関するものなど数おおく行われているが、私は三つの言語に絞ることによって、その言語間の関係性について詳しく見ていくことができる。

日本語と中国語を見たときに受け取る感覚は正しく英語のみは異なる受け取り方をする。

方法

Google formのアンケートを行った。この中に日本語、中国語、英語で意味が同じ単語を参加者に見せて、そこから受け取る感情の強さを良いから悪いまで5段階で評価してもらった。Very positivを5点とした。これを単語から受け取る印象と文章から受け取る印象の二つに分けて行った。それぞれ5つずつ行った。また見せる単語や文章に関してchat gptによってvery positivの単語や文章を二つずつ、その逆を二つずつ、中間を一つ生成してもらいそれを実験に用いた。また実験を行ってもらった人に、どうしてそのような感情を受け取ったのかを聞くことによって、考察の参考にした。

結果

20人の実験参加者が得られた。参加者は日本人が14人中国人が4人韓国人が2人である。まず単語の得点の平均点は日本語が3.5、中国語が2.4、英語が1.5となった。文章は日本語が2.6、中国語が3.3英語が1.6となった。

結論：日本語と中国語は中間の印象を受け、英語はより負の印象を受ける。

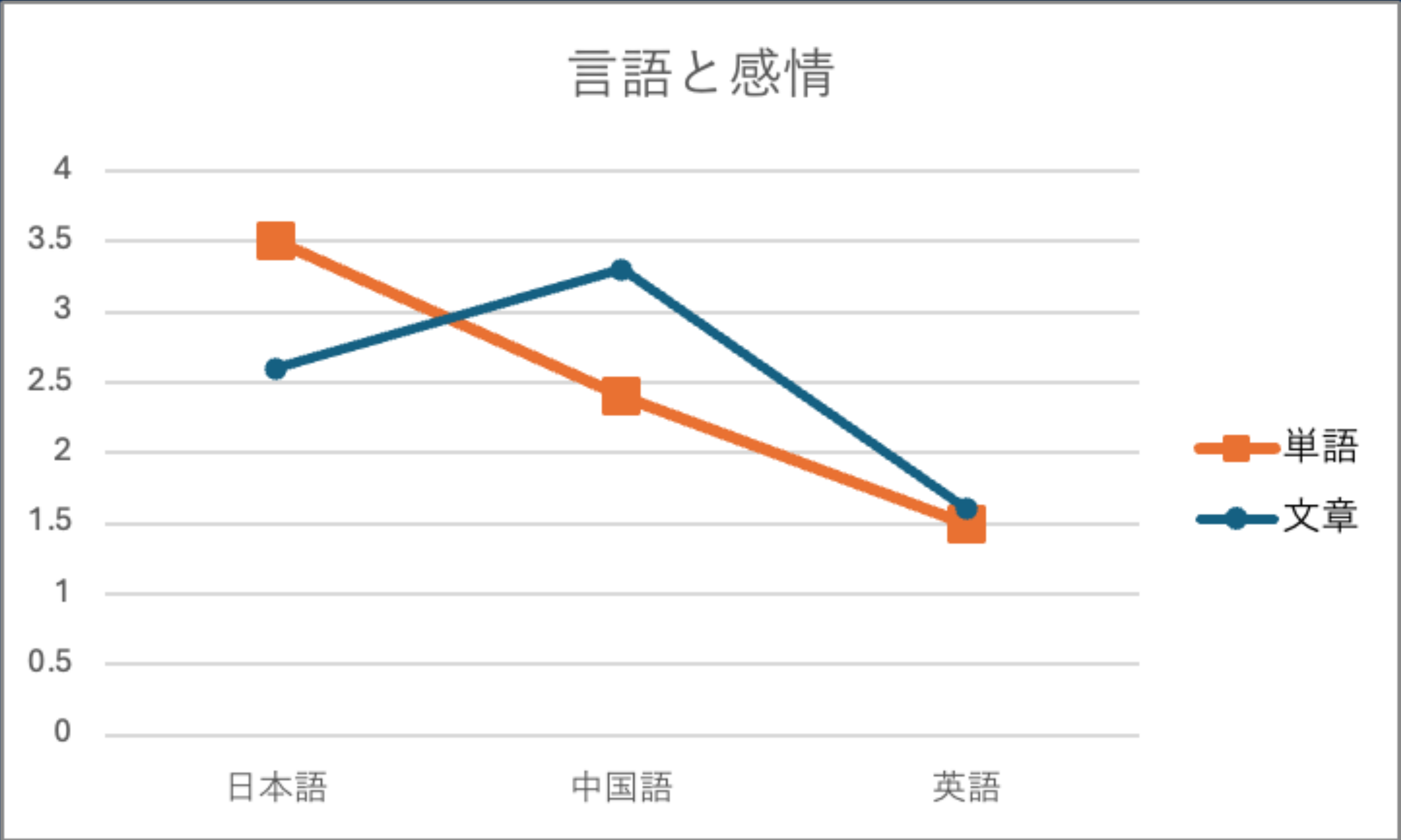


図1 単語と文章に関してそれぞれの平均点を示すグラフ

考察

実験の結果から日本語や中国語から受け取る印象はそのまま受け取る場合が多く、英語から受け取る印象は負の印象になるということがわかる。これは実験の対象が日本人中国人韓国人であったことも関係してくると思うが、その二つの言語は英語と違い一つ一つの文字が意味を持っており、そこからすぐに印象を受け取ることができる。それに比べて英語はまず単語や文章の意味を受け取り自分がそれを言われた場合にどう思うかを考えてから印象を決定するため、平均が3から離れた印象となった。オガワの研究ではは、たとえ内容が同じであっても、言語によって音声の知覚が異なり、全体的な印象に影響を与える可能性があることを示している。日本語と中国語を認識する際の音の印象と英語を認識する際の音の印象が異なるためにこのような現象が起こっている。

おわりに

日本語と中国語は英語と違い一つの文字に重みがあるため、そこから受ける音の影響も相まって、言語の印象を両極端に受け取ることができる。しかし英語の場合、その二つの言語と言語形式が全くちがいで、負の印象を受けやすくなる。

文献

Ogawa, S. (2015). "Perceptions of Japanese and American voices in Japanese and English languages"。